

第9章 環境の保全のための措置が将来判明すべき環境の状況に応じて

講ずるものである場合における、当該環境の状況の把握のための措置

第1節 事後調査計画

事後調査を行うこととした理由、事後調査の項目及び手法を表 9-1及び表 9-2に示します。

第2節 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の

対応の方針

事後調査の結果、環境への著しい影響が確認された場合には、関係機関と連携をとり、必要な措置を講ずるものとします。

第3節 調査の結果の公表方法

調査結果の公表は、関係機関と協議のうえ、事務所等において随時閲覧できるようにするほか、ホームページなどへ掲載等、調査の進捗に応じ適宜行うこととします。

表 9-1(1) 事後調査の概要（工事中）

環境要素の区分			環境要因の区分	選定	事後調査を行うこととした理由又は 行わないこととした理由	調査内容		
						項目	手法	事後調査時期
大気環境	大気質	粉じん等	建設機械の稼働	×	予測手法は科学的知見に基づく手法であり、予測の不確実性は小さいと考えられること及び、周辺に及ぼす影響が小さいことから、選定しませんでした。	-	-	-
			資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	×	予測手法は科学的知見に基づく手法であり、予測の不確実性は小さいと考えられること及び、周辺に及ぼす影響が小さいことから、選定しませんでした。	-	-	-
		二酸化窒素	建設機械の稼働	×	予測手法は科学的知見に基づく予測式であり、予測の不確実性は小さいと考えられること及び、周辺に及ぼす影響が小さいことから、選定しませんでした。	-	-	-
			資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	×	予測手法は科学的知見に基づく予測式であり、予測の不確実性は小さいと考えられること及び、周辺に及ぼす影響が小さいことから、選定しませんでした。	-	-	-
	浮遊粒子状物質	建設機械の稼働	×	予測手法は科学的知見に基づく予測式であり、予測の不確実性は小さいと考えられること及び、周辺に及ぼす影響が小さいことから、選定しませんでした。	-	-	-	
		資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	×	予測手法は科学的知見に基づく予測式であり、予測の不確実性は小さいと考えられること及び、周辺に及ぼす影響が小さいことから、選定しませんでした。	-	-	-	
	騒音	騒音	建設機械の稼働	×	予測手法は科学的知見に基づく ASJ CN-Model 2007 であり、予測の不確実性は小さいと考えられること及び、周辺に及ぼす影響が小さいことから、選定しませんでした。	-	-	-
			資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	×	予測手法は科学的知見に基づく ASJ RTN-Model 2008 であり、予測の不確実性は小さいと考えられること及び、周辺に及ぼす影響が小さいことから、選定しませんでした。	-	-	-
	振動	振動	建設機械の稼働	×	予測手法は科学的知見に基づく予測式であり、予測の不確実性は小さいと考えられること及び、周辺に及ぼす影響が小さいことから、選定しませんでした。	-	-	-
			資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	×	予測手法は科学的知見に基づく予測式であり、予測の不確実性は小さいと考えられること及び、周辺に及ぼす影響が小さいことから、選定しませんでした。	-	-	-

表 9-1(2) 事後調査の概要(工事中)

環境要素の区分			環境要因の区分	選定	事後調査を行うこととした理由又は 行わないこととした理由	調査内容		
						項目	手法	事後調査時期
水環境	水質	水の濁り	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去		水の濁りについては、類似の工事事例を基に予測していますが、本計画との諸条件の違いにより不確実性が生じると考えられることから選定しました。	・浮遊物質量 ・環境保全措置 実施状況	予測地点において、「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和46年、環境庁告示第59号)に定める方法により、浮遊物質量の状況を調査します。	予測対象時期と同時期 (2回(渇水期・豊水期))
		水の汚れ	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去		水の汚れについては、類似の工事事例を基に予測していますが、本計画との諸条件の違いにより不確実性が生じると考えられることから選定しました。	・水素イオン濃度 ・環境保全措置 実施状況	予測地点において、「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和46年、環境庁告示第59号)に定める方法により、水素イオン濃度の状況を調査します。	予測対象時期と同時期 (2回(渇水期・豊水期))
	地下水の水質及び水位	地下水の水位	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去		地下水の水位については、地質や地下水位の状況並びに予測条件とした構造物の透水性の設定に不確実性が生じることから、選定しました。	・地下水の水位 ・環境保全措置 実施状況	地下水位観測井を設置し、水位計測器により地下水位を計測します。	工事着手前～工事中 (自動計測)
	水象	河川の形態、流量	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去		河川の形態、流量については、類似の工事事例を基に予測していますが、本計画との諸条件の違いにより不確実性が生じると考えられることから選定しました。	・排水量 ・環境保全措置 実施状況	「水質調査方法」(昭和46年、環境庁水質保全局)に定める方法により、工事排水の排水状況を確認します。	予測対象時期と同時期 (2回(渇水期・豊水期))
その他の係る環境	地盤	地盤沈下	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去		地盤沈下については、地質や地下水位の状況によって予測の不確実性が生じることから、選定しました。	・地盤変動量 ・環境保全措置 実施状況	観測鉋を設置し、水準測量により地盤の変位を計測します。	工事着手前～工事中 (1回/月)
	廃棄物等	建設工事に伴う副産物	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去		建設工事に伴う副産物については、工事計画の状況によって予測の不確実性が生じることから選定しました。	・廃棄物の種類及び量、発生土の量 ・環境保全措置 実施状況	工事関係資料の整理により、廃棄物の種類及び量、発生土の量を確認します。	予測対象時期と同時期 (1回)
	地域社会	交通混雑 交通安全	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	×	予測手法は科学的知見に基づくものであり、予測の不確実性は小さいと考えられること、また、適切な措置を講じるとともに、関係機関と協議の上で工事計画を検討するため、可能な限り周辺に配慮した対応が図られるものと判断し、選定しませんでした。	-	-	-
		文化財	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去	×	関係法令等に基づき適切な措置を講じるため、適切な対応が図られるものと判断し、選定しませんでした。	-	-	-
		(安全) 地下埋設物 (破壊)	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去	×	関係法令等に基づき適切な措置を講じるため、適切な対応が図られるものと判断し、選定しませんでした。	-	-	-

表 9-2 事後調査の概要（供用後）

環境要素の区分			環境要因の区分	選定	事後調査を行うこととした理由又は 行わないこととした理由	調査内容		
						項目	手法	事後調査時期
大気環境	騒音	騒音	列車の走行（地下を走行する場合を除く。）		列車の走行に伴う騒音の予測については、確立された理論式を用いていますが、類似の既設線と本計画路線との諸条件の違いにより不確実性が生じると考えられることから選定しました。	・鉄道騒音 ・環境保全措置実施状況	予測地点において、「在来鉄道の新設又は大規模改良に際しての騒音対策の指針について」（平成7年12月20日 環大第174号）に定める方法により、騒音の状況を調査します。	予測対象時期と同時期（1回）
	振動	振動	列車の走行		列車の走行に伴う振動の予測については、類似の既設線の測定結果を基に予測式を導出していますが、類似の既設線と本計画路線との諸条件の違いにより不確実性が生じると考えられることから選定しました。	・鉄道振動 ・環境保全措置実施状況	予測地点において、「環境保全上緊急を要する新幹線鉄道振動対策について（勧告）」（昭和51年3月12日 環大特第32号）により、振動の状況を調査します。	予測対象時期と同時期（1回）
水環境	地下水の水質及び水位	地下水の水位	鉄道施設（地下式）の存在		地下水の水位については、地質や地下水位の状況並びに予測条件とした構造物の透水性の設定に不確実性が生じることから、選定しました。	・地下水の水位 ・環境保全措置実施状況	地下水位観測井を設置し、水位計測器により地下水位を計測します。	予測対象時期と同時期（1回）
その他の係る環境	地盤	地盤沈下	鉄道施設（地下式）の存在		地盤沈下については、地質や地下水位の状況によって予測の不確実性が生じることから、選定しました。	・地盤変動量 ・環境保全措置実施状況	観測鉋を設置し、水準測量により地盤の変位を計測します。	予測対象時期と同時期（1回）
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	鉄道施設（地表式又は掘割式）の存在	×		景観については、事業実施による景観の変化を把握できるフォトモンタージュの作成により予測を行っており、この手法は従来から多くの実績のある予測手法で不確実性は小さいと考えられること、また、周辺に及ぼす影響が小さいことから選定しませんでした。	-	-	-
廃棄物等	駅舎の供用に伴う一般廃棄物	施設の供用（駅舎の供用）			駅舎の供用に伴う一般廃棄物については、事業計画等の状況によって予測の不確実性が生じることから選定しました。	・廃棄物の種類及び量 ・環境保全措置実施状況	関係資料の整理により、廃棄物の種類及び量を確認します。	予測対象時期と同時期（1回）
	駅舎の供用に伴う産業廃棄物	施設の供用（駅舎の供用）			駅舎の供用に伴う産業廃棄物については、事業計画等の状況によって予測の不確実性が生じることから選定しました。	・廃棄物の種類及び量 ・環境保全措置実施状況	関係資料の整理により、廃棄物の種類及び量を確認します。	予測対象時期と同時期（1回）

